



おぐら  
尾倉

<校訓>  
自主  
創造  
協力



令和4年7月7日(木)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなで作る尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
  - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
  - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

## 中体連夏季大会に寄せて～尾倉中の生徒へ～

6月の陸上部の区内大会から3年生の皆さんが目標にしている中体連夏季大会が始まっています。文化部の皆さんもこれから、コンクールや作品制作が待っています。とりわけ、運動部に所属する3年生の皆さん。中学校生活最後の夏。この大会に向けた思いや意気込みは並々ならぬものがあると思います。先週の金曜日に壮行会がありました。今日は、校長先生からの応援メッセージです。

小学校、中学校つまり、学校は、「マスト」つまり、「～しなくてはならない」ということが多い場所です。例えば、「授業は毎日受けなければならない」「給食当番になったらその仕事をしなくてはならない」「清掃の時間になったら、掃除しなくてはならない」など、特別な場合を除いて、マストな生活や学習を強いられています。いいとか、悪いとか、そういう問題ではなく、尾倉中学校に限らず「学校」という場所はそういうものです。しかし、学校の活動として取り組んでいるものの中に、一つだけ「しなくてもいい活動」があります。それが、部活動です。部活動は希望者のみが所属する活動です。言い換えれば、部活動に所属している人は「しなくてもいい活動をしている」のです。

しなくてもいいことをしている理由は、何なのでしょう。帰りの会が終わればすぐに家へ帰って自分の好きな時間を過ごせばいいのに、部活動をする理由は何なのでしょう。人それぞれだとは思いますが、「好き」という言葉が校長先生の頭に思い浮かびます。「嫌い」な種目や活動をわざわざ選んでいる人はいないでしょう。そして、大好きなその競技や活動に取り組めば取り組むほど、「もっとうまくになりたい」「もっと強くなりたい」と思うのではないのでしょうか。そうやって取り組んできた部活動ですが、様々な思いを込めて、3年生にとっては中学校最後の夏が始まっています。

校長先生の苦い経験のほんの一部を簡単に書きます。今から約10年前の8月の県大会。先生は、板櫃中のバドミントン部監督として、これに勝てば九州大会という、県大会ベスト8まで進んでいました。相手のペアは筑後地区1位で強いペアでした。しかし、板櫃中のペアは県大会に入ってから調子がよく、この試合にたどりつくまでの3試合すべて2-0で勝ち抜いてきました。自信が慢心になることのないように、選手たちに話して聞かせ、自分にも言い聞かせてたどりついた「あとひとつ」。このペアのもっている実力を出し切れれば、九州大会への切符を手に入れることができると思っていました。しかしその大事な試合。1ゲーム目のマッチポイントをとったとき、校長先生は心の中で「勝てるかもしれない」と思ってしまっただけです。まだ試合は終わっていないのに。結果はそのゲームを20-22で落とし、2ゲーム目も落としました。あとで考えてみると、先生の指導者としての未熟さ。「勝てる」と思った瞬間、すでに負けていたのです。

監督として何百試合も経験しているはずなのに、です。選手たちは全力を出しました。しかし、先生の心のどこかに、「このまま逃げ切る」という微妙な感情があり、選手へのアドバイスに影響していたのではないかと思います。教訓でした。

「勝てると思ったら、負ける」、しかし、「絶対に勝つ」「負けない」という気持ちを前面に出し、最後まで尾倉中の生徒として、恥ずかしくない、元気のいいプレーを期待しています。「頑張れ!」と言えばプレッシャーになるかもしれないので、この言葉を贈ります。「リラックス!そして、最後まで笑顔で!」

部員たった1人 3年後閉校の大阪府立高野球部が挑む「最後の夏」 7月6日 毎日新聞より